



## 多難のネパール旅行（1）

2020年2月25日—3月9日

—コロナに翻弄される—

エスペランチスト 堀 泰雄

エスペランチストとして世界的な活動をしている堀さんに投稿していただきました。続編もご期待ください。

上の期間に、「第4回バス旅行版ヒマラヤの集い」が、ネパールで開かれた。私は1999年から「ヒマラヤの集い」に参加しているので、今回が通算17回目くらいになる。ネパールにはもう慣れっこであるが、今年は、今までになく多難な旅行になった。

### 少しくらいの危険は覚悟で

新年の頃には、コロナは中国の問題だったが、段々脅威が拡散して、様々な影響が出てきた。周りの人は、こんな時には行かないほうが良いと、しきりに勧めるが、ネパールの運動のことや親しいネパール人のことも考えると、そうもいかない。少しくらいの危険は、覚悟だ。

計画では、2月23日から出かけて、エスペランチスト・カップルの結婚式に参加する予定だったが、2-3週間前に、まず、予定していた飛行機（キャセイ航空）の便が欠航になり、2時間ほど早い便に変更になった。そして更に、2月21日に、それも欠航になった。飛ぶ飛行機はその日の翌日の22日か、25日だという。翌日では余りに急なので、結婚式はあきらめて、25日の便に乗ることにした。香港までの飛行機はまあまあ半分くらいの混みようで、香港についた。乗り換えの時に、係員に、額の熱を測られた。平熱だったので無事通過したが、もし熱があったら、どうなったのか？香港の病院に収容か、あるいは日本へ送還になったのか。まあ、それに不ならず順調にカトマンズについた。

### 一週間後には日本人入国禁止に

ネパールには、当初コロナの患者が1人いたが、その後の感染はなく、皆正常に暮らし、ハグをしたりして、屈託ない。新聞にも、日本の情報などはほとんど出ない。ある日、ネパール人の1人が「北朝鮮では、罹患者を殺したという話だ」と、スマホで見たニュースを伝えてきた。ありうる話だ。殺してしまえば、たちどころに感染を防げるし、医療や看護なども不要だ。実に賢いやり方だが、そんなことが現代に起こるとしたら、それは

恐ろしい。日本に帰って新聞を読んでいるがそんな話は今の所見当たらない。しかし金正恩は、コロナを恐れて平城から離れているらしいという記事は載っていた。

3月5日に、中部の町ポカラを訪問した。そこで、数人の日本人観光客に出会ったので、コロナ情報を聞いてみた。すると「コロナはおさまっていない。ネパール政府は日本人の入国を禁止したので、3日に出国した私たちが最後の日本人です」という。

### 人影のないポカラ

2020年は「ネパール観光年」になっていて、町のいたるところに旗が翻り、ポスターなどが貼り出されていた。ところが、コロナの影響で観光客が来なくなり、ネパール政府は、「観光年」の停止を決めた。それももともとで、町は、閑散としている。ポカラは、観光都市だが、大きなレストランにも、客が一組、二組、みやげ物屋には、ほとんど人影がない。店員は、暇を持て余してスマホで遊んでいる。日中韓の観光客はいなくなり、かろうじてヨーロッパ系の人々が来ているだけだ。こんな中だから、観光年の取りやめも仕方がない。しかし、ネパールには観光くらいしか産業がないから、観光がだめだと生活への影響は大きい。日本では、支援金やらの施策を政府が取っているが、ネパールにはそんな余裕はないから、何とか自力で生き延びるより方法がない。

### 帰途につく

さて、3月8日夜に帰国となった。普段はごった返して、中に入るのも大変なカトマンズの空港だが、この日はすいすい入れた。カウンターにパ

スポーツを出すと、係官が、「日本で 2 週間の quarantine だが、良いか？」と聞く。quarantine とは、「隔離」という意味である。「え？クルーズ船の Diamond Princess の客同様に、隔離されちゃうのか？」とびっくりし、また中身はどういうことかと、聞いたがはつきりしない。「いやだ」と答えれば、ネパールに滞在しなければならない。そんなことは出来ないから、「OK」と答える。パスポート検査も手荷物検査も、人がいないから、すいすいである。飛行機は、ガラガラで、ほとんど空席である。おかげで、4 つ席が並んでいる真ん中の列で体を伸ばして熟睡出来た。

### 500 人乗りのジャンボジェットに 50 人

香港空港に着く。ここでも人がほとんどいない。電光掲示板を見ると、日本の地方空港へ行く便はみな欠航になっているし、成田行きも何本かは欠航だ。6 番ゲートで待ったが、乗客はほとんど増えず、数えてみると 50 人ほどである。係員が搭乗券を点検にきて、「日本人ですか、OKです」という。何が「OK」なのかと聞いても、ただ「OKです」の返事である。では、日本人でなければどうなるのか。しかし、そこで、あきらめてどこかへ行ったような人はいず、全員が飛行機に乗り込んだ。香港—成田便は、人気の路線だから、使用機種はジャンボで 500 人は乗れる。そこにたった 50 人である。



しかし、心配である。機内でもらった日本経済新聞を読むと、「9 日からは、中国、韓国からの入国者は何とかかんとか」と書いてあるが、内容が良くわからない。別のページには「家族から、『香港経由も対象だ』と言われて、8 日に大急ぎで帰ってきて良かった」というような香港で乗り換え

た女性の話も載っている。今日は 9 日である。ということは、豪華客船の乗客並みになってしまうのか？しかし、考えてみれば、少ないとはいえこれだけの乗客や乗員を全員収容などということは出来る筈はないから、大したことはないのかもしれないと思う。

### 成田空港着 「2 週間の quarantine」

さて、成田に着いた。健康調査の所は、通常は、自動体温測定器の前を歩いてすいすい歩いて行くだけだが、今回は「CX504 の方はこちらへ」と呼ばれた。そこには 4 人が座れる 10 個位のテーブルがあったが、係官が 1 人 1 人に対応するのになかなか順番が来ない。他の空港から来た乗客は対象外なので、我々の横をどんどん通り過ぎてパスポート検査場に向かう。私にもやっと番が来て、機内で渡されたコロナ関係の書類を提出し、更にまた別の書類に記入をした。そして「要請書」を渡された。内容は「健康状態を毎日チェックし、2 週間は外出せず、家などに籠っている」というのである。これが「2 週間の quarantine」の内容であった。係官は、私がバスで前橋まで帰るのが嫌だったらしく「家から誰か車で迎えに来られないか」と聞くが、「できない」と答えると、仕方がない、という顔をして、放免してくれた。

やれやれと、パスポート検査、税関検査を通過して外に出ると、男性が近づいてきて、「日本テレビですが、話しを聞きたいのですが」という。内容は、「9 日からコロナで入国規制が厳しくなったが、どんな内容か」ということで、今まで書いてきたようなことを話した。

### 「あの男が前橋に帰ってくる！」

家に帰ると、何人かから電話やメールが来て、テレビに出ていたよ、という。昨日は、近所の知人から電話が来て、「あのテレビを見た前橋市の男性が、市長に電話をして『あの男が帰ってくるが大丈夫か。対応しないのか』と抗議したそうだ。市長は『県が対応する』とか答えたらしい」と教えてくれた。

帰国後、大忙しの日々になるはずだったが、それらが全て中止になったので、おおむね「要請書」に沿って今謹慎生活をしている。